

### 3. 植物調查結果

### 3. 植物調査

#### 3.1 植物調査結果の概要

##### (1) 確認種

今回とりまとめを行った 35 水系 41 河川（植物調査: 13 河川、河川環境基図作成調査: 36 河川）で確認された植物は、179 科 2,103 種でした。

確認種数が多かった河川は、中国地方の太田川で 971 種、次いで中部地方の天竜川で 785 種、東北地方の鳴瀬川で 683 種でした。

(注)とりまとめ河川について

平成 18 年度の河川水辺の国勢調査の調査体系の変更に伴い、植物調査では植物相調査、河川環境基図作成調査では、植生図作成調査、群落組成調査、植生断面調査が実施されました。個別の種に関する分析では、植物調査の結果を用い、群落面積に関する分析については、河川環境基図作成調査の植生図作成調査の結果を用いています。

##### (2) 重要種

今回とりまとめを行った 41 河川で確認された重要種は、レッドリストで絶滅危惧 A 類に指定されているヒルガオ科のマメダオシ、絶滅危惧 B 類に指定されているゴマ科のヒシモドキ、キク科のカワラノギク等、41 科 73 種でした。

重要種の確認種数が最も多かった河川は、北海道地方の湧別川、中部地方の天竜川、中国地方の太田川で 12 種でした。

(注)重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種、亜種、変種、品種を重要種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・ レッドリスト（レッドデータブックに掲げるべき日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）環境省、2007 年 8 月公表、2007 年 10 月修正

##### (3) 国外外来種

今回とりまとめを行った 41 河川で確認された国外外来種は、ウリ科のアレチウリ、アリノトウグサ科のオオフサモ、キク科のオオキンケイギク等、63 科 354 種でした。

国外外来種の確認種数が最も多かった河川は、中国地方の太田川で 169 種、次いで中部地方の天竜川で 155 種でした。

(注) 国外外来種の選定基準について

本資料における国外外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、国外外来種の選定には、資料 I.6 (30～31 ページ) および 32 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。